

寄附者設定テーマ事業 事業報告シート

団体名	NPO 法人松江市聴覚障害者協会
テーマ名	フリーテーマ(安全なくらしの推進)
事業名	聴覚障がい者も安全に暮らせる街づくり事業
事業費(うち助成金額)	198,644 円(うち助成金 198,644 円)
ネーミングライツ(該当があれば)	※NPO活動推進室記載箇所



■事業目的 (250文字程度)

当協会では、聴覚障がい者の社会参加や災害時、緊急時における情報手段を保障するために手話の普及や手話奉仕員の養成を行っております。災害時にろうあ者は音声での情報(テレビ、ラジオ、防災無線等)が得られず、避難が遅れる恐れがあります。また、避難できたとしても避難所でのスピーカー等の音声による案内がわからず、食料品や飲み物の配給が遅れる心配もあります。そこで、避難時も外見ですぐわかるように「聴覚障害者」と表示したビブスを身に着けることを提案します。ろうあ者が避難所でも安心して過ごせるように支援したいと考えています。

■事業内容 (350字程度)

令和6年9月22日(日)に松江市総合福祉センターで防災教室を開催しました。参加者には今回購入したビブスを着用してもらい、災害時の避難先で「耳が聞こえない」ということが一目でわかるようにして、手話通訳や筆談など何らかの情報保障の手助けを受けやすくなることを説明しました。参加したろう者からはこれなら安心できるという声をいただきました。また、当協会以外の松江市在住の聴覚障がい者にもビブスを郵送しました。この事業で購入したビブスを、避難所で聴覚障がい者が着用することで、周りの人たちも生活に必要な情報を提供することができると思います。

■事業成果と今後の展望 (450字程度)

聴覚障がい者は外見からは障害があることがわからない「見えない」障がいであるという特性があり、どのようなことで困っているのかなかなか理解されない面があるため、「聴覚障害者」と表示されたビブスを着用することで、周りの人も筆談するなどして情報を提供してくれる人が増えることが予想されます。また、手話を覚えたい、勉強したいという人が増えてくると思います。手話ができる人が増えれば、手話通訳がない時でも、簡単唾手話ができるとうろあ者は安心できます。近年は全国のどこでも地震や大雨などの災害が生じているので、普段から災害訓練に参加するなどして災害に備えて行動することが大事になっています。ビブスを購入して終わりではなく、これからも1年に1回は防災訓練に参加するようにろうあ者にも呼びかけていきたいです。